

環境基本方針

日本ガイシグループは、地球環境の保全を人類共通の重要課題と認識し、環境と調和した企業活動を推進するため、1996年4月に環境基本理念と環境行動指針から成る環境基本方針を制定しました。この基本方針のもと、事業活動に伴う環境負荷の低減を図るとともに、環境保全に資する製品や技術の開発を通じて地球環境の保全に貢献していきます。

環境基本理念

「より良い社会環境に資する商品を提供し、新しい価値を創造する」ことを企業理念としている日本ガイシは、次世代の快適環境をつくる「トリプルE」(エコロジー、エレクトロニクス、エネルギー)の事業領域を通じて地球環境問題に貢献していくものとします。

当社の環境基本方針についての詳細は、右記リンク先をご覧ください。 <https://www.ngk.co.jp/info/governance/>

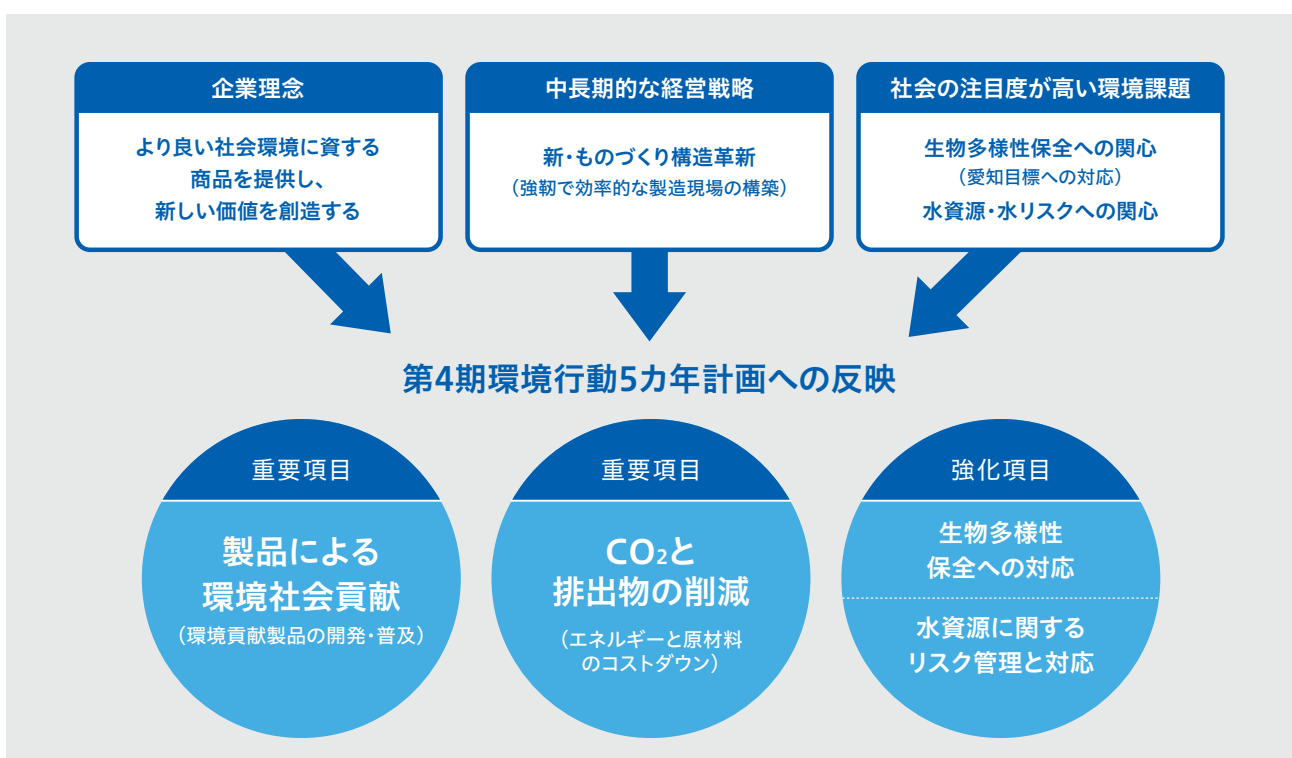
環境行動5カ年計画

環境活動の目標として、「第4期環境行動5カ年計画」(2016年度～2020年度)を策定。年次目標を毎年設定し、環境活動を推進しています。

第4期環境行動5カ年計画(2016年～2020年)の概要

「第4期環境行動5カ年計画」では、企業が対応すべきグローバルな環境課題を活動項目に網羅した上で、日本ガイシグループの企業理念や中長期的な経営戦略、社会のニーズをふまえ、重要項目と強化項目を設定しました。

企業理念の実現に直結する「製品による環境社会貢献」を重要項目に設定したほか、競争力強化に向けた中長期的な活動である「新・ものづくり構造革新」と関連性が強い「CO₂削減」「排出物削減」も、重要項目としました。また、社会からの要請が高まっている「生物多様性保全」や「水資源に関するリスク管理と対応」は、強化項目としています。



環境行動5カ年計画当期の進捗結果

本5カ年計画の2017年度目標と実績、2018年度目標および最終年度である2020年度目標を以下に示します。

2017年度については計数目標を設定した項目のほとんどで年次目標を達成したほか、その他の項目についても期首の計画通りに進捗しました。特に排出物の売上高原単位は、事業部門の努力の結果、年次目標を大きく上回る成果を上げることができました。本5カ年計画は目標達成に向け、計画策定時の想定を上回るペースで順調に推移しています。中でもCO₂および排出物の対BAU削減率については前倒しで計画を達成したため、目標値を上方修正しました。2018年度もグループ全社が一丸となって目標達成に向けて環境活動に取り組んでいきます。

区分	項目	管理項目	2017年度			2018年度	2020年度	
			目標	実績	自己評価 ※1	目標	目標	
環境社会貢献	 製品による環境社会貢献	環境貢献製品の開発・普及	売上高伸び率(連結)	2013年度比30%増	2013年度比37%増	○	2013年度比43%以上	2013年度比60%以上
		グリーン調達 の推進	計画進捗率	日本ガイン国内取引先の「CSR調達ガイドライン」への同意率99%以上	同意率99.9% (一部同意含め100%)	○	日本ガイン国内取引先の「CSR調達ガイドライン」への同意率99%以上	国内のレベル維持・海外の取り組み拡大
	 環境コミュニケーションの推進	地域社会への貢献	計画進捗率	出前授業の実施、地域の環境保全活動に参加	児童館で出前授業実施、さまざまな環境保全活動に参加	○	出前授業の実施、地域の環境保全活動に参加	地域と連携した活動の継続・充実
		環境意識の向上	計画進捗率	従業員への環境教育実施、従業員との対話、環境イベントの参加推進	階層別教育実施、CSRトークライブ開催、緑のカーテンなど実施	○	従業員への環境教育実施、従業員との対話、環境イベントの参加推進	環境教育、情報開示の継続・充実
	 生物多様性保全への対応	生物多様性保全ガイドラインに基づく活動の推進	計画進捗率	社有地の生物調査継続、従業員へのMY行動宣言への参加推進	調査結果の現地での展示、MY行動宣言約4,300人参加	○	MY行動宣言の国内グループ会社への展開	愛知目標に対応し取り組み内容を拡充
環境負荷低減	 地球温暖化防止	生産活動に伴うCO ₂ 削減	売上高原単位(連結)	2013年度比11%削減	2013年度比14%削減	○	2013年度比14%削減	2013年度比20%削減
			対BAU削減率※2(連結)	2013年度比15%以上	2013年度比18%	○	2013年度比18%	2013年度比18%に上方修正(計画策定時15%)
	 資源の有効利用	サプライチェーンでのCO ₂ 削減	輸送量原単位※3(単独)	5年度間平均※4 1%/年削減	5年度間平均※4 4.5%/年増加	×	5年度間平均※4 1%/年削減	5年度間平均※4 1%/年削減
		生産活動に伴う排出物削減	売上高原単位(連結)	2013年度比17%削減	2013年度比28%削減	○	2013年度比28%削減	2013年度比30%削減
			対BAU削減率※2(連結)	2013年度比19%以上	2013年度比22%	○	2013年度比23%	2013年度比23%に上方修正(計画策定時20%)
資源循環の推進	再資源化率(国内)	99%以上	99.1%	○	99%以上	99%以上を維持		
	水資源に関するリスク管理と対応	計画進捗率	第三者による水リスク調査	6拠点追加調査実施	○	水リスク調査継続、調査結果を拠点へフィードバック	拠点別リスク評価と水利用の効率化への取り組み強化	

※1 年度目標に対する達成度の自己評価基準：○ 目標達成 × 目標未達成

※2 対BAU削減率：削減しない場合の排出量に対する削減量の割合を示す(BAUはBusiness as Usualの略)。

この指標は為替等の影響が小さいため、生産部門の改善努力を直接見ることができます。

※3 輸送量原単位は、トンキロあたりの原油換算燃料使用量です。

※4 算定方法は、省エネ法に従っています。

環境貢献製品の開発と普及

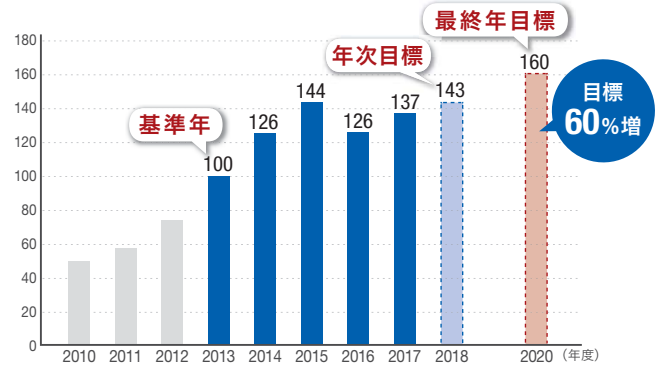
より良い社会環境に資する製品・サービスの提供は、日本ガイシグループにとって最も重要な使命の一つです。創立以来約100年にわたり蓄積した技術を生かし、地球環境への負荷を低減する製品・技術を開発、提供しています。

日本ガイシグループでは企業理念に直結する「環境貢献製品の開発・普及」を、第4期環境行動5カ年計画の最重要項目に位置づけ、環境貢献製品の売上高を、2020年度に2013年度比60%増（かつ全製品に占める売上比率50%以上を維持）とすることを目指しています。

2017年度の環境貢献製品の売上高は2013年度比で37%増となり、年次目標の30%増を達成しました。

環境貢献製品の売上高伸び率(日本ガイシグループ)

売上高伸び率(%)*



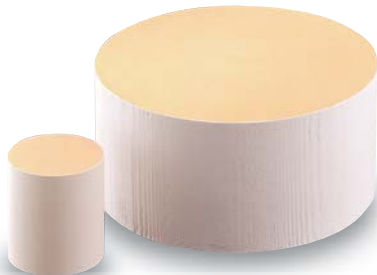
*売上高伸び率の推移は2013年度を100として算出。

主な環境貢献製品

ハニセラム®

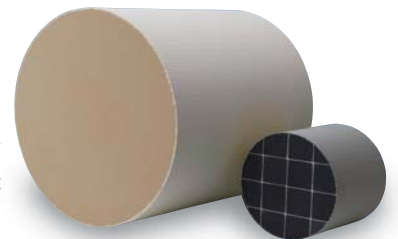
自動車の排ガスに含まれる有害成分を浄化する触媒担体用セラミックスです。

現在、世界8カ国で生産しており、累計出荷数は約15億個です。



DPF(ディーゼル・パティキュレート・フィルター)

世界中のディーゼル車の排気系に搭載されている多孔質セラミックフィルターです。微細孔により粒子状物質(PM)を確実に捕集し、ディーゼル車の排ガスをきれいにします。



NOxセンサー

排ガス中の窒素酸化物(NOx)濃度を高精度で測定できる世界初の車載用センサーです。



NAS® 電池

日本ガイシが世界で初めて実用化したメガワット級の電力貯蔵システムです。再生可能エネルギーの普及拡大を支え、地球温暖化防止に貢献します。



低レベル放射性廃棄物処理設備

独自の焼却技術や排ガス除塵技術を用いて低レベル放射性廃棄物を安全に処理する各種設備を、全国の原子力関連施設に納入しています。



波長制御乾燥システム

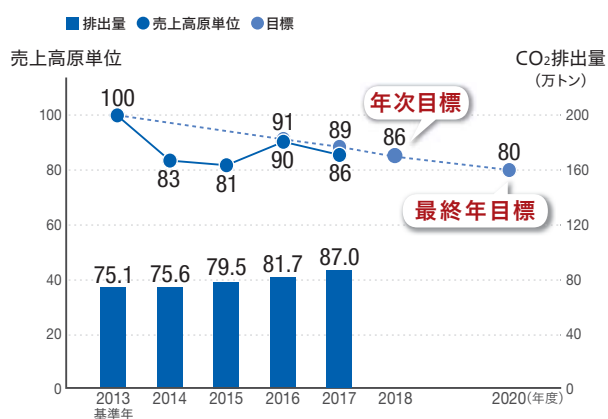
特定の波長の光を選択的に照射することにより、低温(約40℃)で製品への熱ダメージを抑えて乾燥でき、製品の品質向上と生産性向上に貢献します。



CO₂と排出物の削減

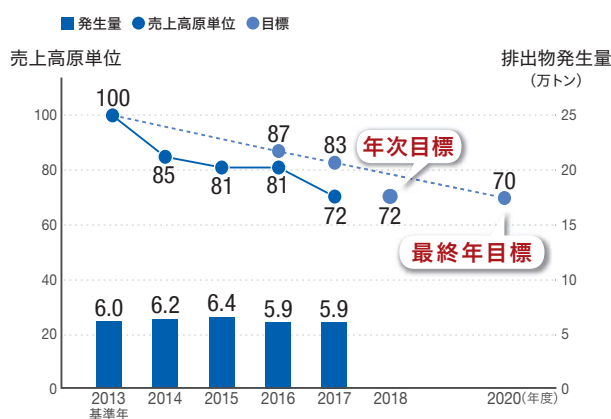
日本ガイシグループは5カ年計画で設定した環境負荷(CO₂、排出物)削減目標の達成に向け、国内外の全製造拠点について事業計画に沿った年次改善計画を立案・管理し、着実に成果を積み上げてきました。2017年度は大規模な海外新工場の立ち上げや新製品の量産開始など、環境負荷の増加要素があったものの、削減対策の上積みや立ち上げロスの最小化により年次目標を達成しました。2018年度も国内で新工場の立ち上げを行いますが、5カ年目標達成に向けてさらなる改善に取り組んでいきます。

CO₂排出量・売上高原単位*の推移(日本ガイシグループ)



※売上高原単位の推移は2013年度を100として算出。

排出物発生量・売上高原単位*の推移(日本ガイシグループ)



※売上高原単位の推移は2013年度を100として算出。

生物多様性保全への対応

日本ガイシグループは持続可能な社会の実現を目指す上で、生物多様性保全への対応を重要な課題の一つと捉え、以下の取り組みを行っています。

「愛知目標」の実現を目指す活動

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で合意された国際目標「愛知目標」に対応する取り組みを進めています。2017年度は、「社有地での生物調査」を継続したほか、新たに「MY行動宣言」に取り組みました。

環境省「MY行動宣言」への参加推進

従業員の啓発活動として、経団連・環境省らが主導する「MY行動宣言」への参加推進を開始しました。従業員一人ひとりが生物多様性を身近に捉え、保全のために行動することが目的で、約4,300人(日本ガイシ従業員の97%)の「宣言」が集まりました。今後も活動を継続し、国内グループ会社にも水平展開を図っていきます。

愛知目標	当社の活動
目標① 普及啓発	従業員への環境教育、次世代教育、 調達先との連携 、 従業員のMY行動宣言への参加推進
目標④ 持続可能な生産と消費	環境貢献製品の拡販、CO ₂ 排出量の削減、資源の有効利用、 調達先との連携
目標⑤ 生息地破壊の抑止	植林や環境保全活動への従業員のボランティア活動、 社有地の生物調査/適正管理
目標⑧ 化学物質などによる汚染の抑制	化学物質・大気・水質管理、大気汚染防止製品の拡販、 調達先との連携
目標⑨ 外来種への対応	社有地の生物調査/適正管理
目標⑪ 保護地域の保全	植林や環境保全活動への従業員のボランティア参加
目標⑭ 生態系サービス	植林や環境保全活動への従業員のボランティア参加、 社有地の生物調査/適正管理

※1 出典:「電機・電子業界における生物多様性の保全にかかわる行動指針」(電機・電子4団体 環境戦略連絡会 生物多様性ワーキンググループ)

※2 赤字は2016年以降に開始した活動。

水資源に関するリスク管理と対応

日本ガイシグループでは、全製造拠点の水リスク評価を実施するとともに、独自のガイドラインを用いて水利用の効率化を推進しています。水リスクについては、公的なツールを用いて全製造拠点の自己評価を実施し、水不足が懸念される拠点については第三者による詳細な分析を実施しています。調査結果では、いずれの拠点も現時点の水リスクは深刻な状態ではありませんが、将来に備えて規制動向等のウォッチを実施していきます。